



学校だより ウルムス

平成26年11月28日

12月号

横浜市立釜利谷南小学校

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariyaminami/>

校長 田中 綾子

個性輝いて

11月22日(土)はスタディフェスタでした。今年度も620名を超える参観者の皆様にお礼を申し上げます。スタディフェスタの紹介号は年明けて1月号になりますので、楽しみにしてください。

スタフェスで6年生の廊下に掲示してあった「ふくべのお面」をご覧いただけたでしょうか。これは10月22・23日の日光修学旅行での6年生の力作です。夕食・入浴・買い物終了した8時頃から約80分かけて仕上げました。材料はユウガオの実です。

作り方を指導して下さった地元の達人の説明によると、

「日光市のある栃木県は、かんぴょう全国生産量の90%を占めています。かんぴょうは、ユウガオの実を機械で細長くむいて、それを乾燥させます。ふくべ細工は種を取り除いたユウガオの外皮を4ヶ月かけて乾燥させ、細工したものです。宇都宮地方では昔から魔除けの面が作られていましたが、江戸時代にユウガオが栽培されるようになると外皮(ふくべ)でお面を作るようになりました。明治から昭和の初めにかけて、ふくべの炭入れ、花器、小物入れなどが作られています。」

子どもたちはそれぞれ事前にデザインを考えてきてはいるのですが、ユウガオは自然のものです。どれ一つとっても同じ形はありません。予定と違います。「さあ、なかなか難しいぞ。悩んで時間内に仕上がらなかつたらどうするのだろう。」と思いながら見ていると、自然の出っ張り、引っ込み、膨らみ、とんがり、ゆがみを利用して下書きを進めています。速い子は20分後には口を鋸で開けてもらうため達人に頼みに行きました。途中で工夫したため何回か下書きを変更した子、彩色するときに発想が拡がり塗り重ねる子、デフォルメの思い切りが良くなっていく子などなどぐんぐん作り進めていきます。失敗なんて恐れない、下手なんてない、そんなのびのびと、生き生きとした気持ちが伝わってきました。

次々と仕上がって並べられていく作品は個性が輝いています。みんな違う、味のある表情。



1つ1ついいに鑑賞



ユウガオの実



並んだ並んだ顔・顔・顔



作製中
みんな集中



6年生の作品を見ているとき、ふっと思い出した詩がありました。

みんなちがって みんないい

わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、
地面(じべた)を早くは走れない。
わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのように
たくさんうたは知らないよ。
すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞさんの詩です。3年生の国語教科書にあります。

みすゞさんは大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した日本の童謡詩人です。それぞれが別々で、でもそれに優劣は無いこと、それぞれが輝いている大切な存在だということです。

ふくべのお面がひとつひとつ輝いているように、それを作った6年生も、そして、釜利谷南小のだけれど、輝いている大切な存在です。11月の朝会で6年生が作ったふくべのお面と、「わたしと小鳥とすずと」を紹介しました。

図書館司書の杵築先生から、「3年生に金子みすゞの詩の本が人気です。」と、うれしい報告がありました。

詩の題名は「わたしと小鳥とすずと」ですが、本文では「すずと、小鳥と、それからわたし」になっています。「あなたと、そしてわたし」です。

相手を認め、思いやることで、自分の輝きは一層増していきます。